



総合教育センターだより

118号 平成28年9月発行 山梨県総合教育センター

平成28年度夏季研修会を終えて

研修指導部

7月22日から8月19日までの約1ヶ月間、平成28年度夏季研修会を開催しました。今年の夏季研修会は、学校現場の夏季休業期間の縮小や「山の日」の制定による研修日の減少もあり、実質研修開催日は18日間、開催した研修数は172研修（外部共催研修も含む）、参加人数はのべ5,957人になりました。1日平均330人あまりの先生方がセンターで研修を受けたこととなります。最も多い日は500人あまりの参加者があり、駐車場等で多くの先生方に御不便をおかけした事もあったと思いますが、皆様の御協力のおかげで無事終了することができました。ありがとうございました。

さて、本センターでは「学校教育を支援する確かな情報発信源としての総合教育センター」を基本方針に据えて業務に取り組んでいます。今年の研修会においても、先生方の資質能力の向上はもちろん、学校現場への還元ができるような研修内容・形態になるように研修会を企画運営してまいりました。多くの研修会で受講者の皆さんから「役立つ内容であった」「2学期からの実践に生かしたい」という回答をいただきました。



昨年度から研修会アンケートはシステムから入力していただく形式になりました。各研修会で運営担当者から説明があったと思いますが、研修会終了後2週間以内に回答しないと集計作業に入るため回答することができません。年度末に学校長に所属職員の受講した研修会の出欠席とアンケートへの回答の有無が送付されます。それを見て「今からでもアンケートに回答できますか？」という問い合わせを多くいただきましたが、期間を過ぎてしまうと回答できません。今年度のアンケート回答率は、おおむね80%程度です。運営担当者が研修会の内容を吟味したり、来年度の研修会の企画を考える上で、研修会参加者の率直な意見は大変重要です。多忙な学校現場の状況は十分理解しているつもりですが、ぜひともアンケートに協力していただき、アンケートに回答して研修が完結するという状況を作っていきたいと考えます。研修を企画する側と、研修を受ける先生方が一体となり、よりよい研修を企画できますよう、アンケート回答率を限りなく100%に近づけていけるように今後とも御協力をお願いします。



現在、教育センターでは、本県の教育課題、学校現場や先生方のニーズに応じた研修会を構築するために来年度の研修会の企画に向けて検討を始めたところです。今年度プレ視聴をしていただいたeラーニングについても、その有効性が確認されたので、コンテンツを増やし来年度から順次実施できるように準備を進めていきます。先生方の資質能力の向上並びに学校の教育力の向上のために、今後も本センターの研修を御活用いただければ幸いです。

情報セキュリティ・ネットトラブル対応研修会



本研修は、社会の情報化に伴い問題化している情報セキュリティ・ネットトラブルの対応について、教師として理解しておくべき事柄を学ぶ、ということを目的として実施しました。



午前中の前半では、講師として山梨県警察本部生活安全捜査課サイバー犯罪対策係の方をお招きし、サイバー犯罪の事例、Wi-Fi接続の環境設定に関わる知識、SNSやコミュニティサイトでの注意点などについて講演をして頂きました。位置情報が書かれている写真をネット上に掲載することの危険性など、具体的な事例の紹介もありました。児童生徒のスマートフォンなどの端末を所有する率も年々高くなっている中で、子どもたちをネットトラブルから守るために指導する側の知識として多くの情報を得ることができました。後半は、情報セキュリティ確保のための対応・対策という面で、学校現場で取り扱っている情報、個人情報や校務情報などの管理について考えました。学校教育に関わる個人情報の漏えいの原因として、書類・USBメモリの紛失・置き忘れ・盗難が全体の約80%を占めている実情を伝えました。万が一のことがあると、個人情報を提供して下さっている保護者の方々や子どもたちや地域からの信頼

を失ってしまうことになりかねません。ただ単に情報を守るということだけではなく信頼を守るために、そのための対策として情報セキュリティポリシー等に触れながら話をしました。

キャリア教育研修会



キャリア教育研修会は8月16日に、148名が受講し開催されました。キャリア教育について理解を深め、企画力や指導力の向上を図ることを目的に、筑波大学の藤田晃之教授をお迎えし、午前中は「学校におけるキャリア教育の在り方」と題して講演をしていただきました。新やまなしの教育振興プランとやまなし教育大綱にある山梨県が目指す教育とキャリア教育の関係を再確認した上で、現行のキャリア教育は、一人一人の主體的な学びと、生涯にわたって常に能動的に学び続ける力を育てていくことに重要が置かれているという説明を受けました。最新の動向としては、次期学習指導要領の検討では学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりすることができるよう、「キャリアパスポート(仮称)」などの導入も検討されていると情報提供をしていただき、これからのキャリア教育の在り方について理解を深めることができました。午後は校種ごと班に分かれ、受講者が事前に準備してきた各学校のキャリア教育の現状と課題をもとに発表と意見交換をしました。その後、班に分かれてマンダラ法でキャリア教育を推進する上での課題とその解決策を出し合い、模造紙にフィッシュボーンを使い現状から理想の姿にするためにはどのような解決する方策が必要かを記し発表しました。最後の全体会では、藤田教授より、振り返りと講評をいただき、受講者の満足度の高い研修となりました。「キャリア教育推進には、現状把握をしてスタートラインとゴールを明確化し、PDCAサイクルをまわしていくことを学んだ有意義な講演でした」と受講者から感想をいただきました。



アドラー心理学に基づく学級づくり研修会



定員の80名を大幅に上回る受講希望があった「アドラー心理学に基づく学級づくり研修会」が、8月4日に上越教育大学教授の赤坂真二先生を講師としてお招きし実施されました。赤坂先生のテンポの良いお話に会場全体が引き込まれ、あっという間に時間が過ぎていきました。

午前中は「学級経営をめぐる課題や現状」について、学級経営が経験則に頼らざるを得ない現状と多様化する子どもたちへの接し方のスキルについて、教師のリーダーシップを変えていく必要性についてのお話がありました。また、新学習指導要領の背景を東大生の就職活動の視点から考え、アクティブ・ラーニングの重要性、また、その土台となる学級づくりの必要性についてご講義をいただきました。

後半は、アドラー心理学の基本となるべきことを、先生自身のご経験や実践から、お聞きすることができました。特に問題行動や不登校、いじめなど、学校現場における喫緊の課題について、子どもの起こす行動には「目的がある」と捉えることが、子どもを理解していく上で大切な視点であるということ、「自分は学級に必要とされている」

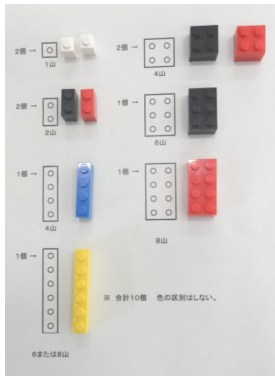


「自分は学級のために何ができるのか」という「共同体感覚」について考えました。受講者からは「パワフルかつ実体験に基づくお話のため、1日聞いていてもまだ聞いていたいです。」「人を引きつけるトークも素晴らしいです。」「学級経営の意味やALの学び方、方法論だけでなくその背景を詳しく教えていただくことで、子どもの実情を理解し、教師が今、何をしていくべきかが分かりました。」「子どもを勇気づける前に、自分が勇気づけられた気がします。ありがとうございました。」と本研修を2学期に活かしていこうという声が寄せられました。本年度は受講できない先生も多く、本当にご迷惑をおかけいたしました。来年度も参加したいというお声もたくさんいただきましたので、応えられるように検討していきたいと思っております。

これからの高校理科教育研修会



本研修会は生徒の科学的な思考力の育成のために、授業改善や評価の在り方を学び、指導力を高めることを目的としました。本年度は国立教育政策研究所で総括研究官をされている後藤 顕一先生を講師としてお招きし、終日、講義やグループワーク（協議）を行いました。



前半は、国の教育課題や教育施策の方向性と理科教育について学び、その後、勤務校の学習環境の把握と求められる資質・能力育成の実現のためのSWOT分析を行いました。さらに、グループ毎にクロスSWOT分析の手法を用いて、具体的な授業改善に向けたアイデアを出し合い、携帯シートにまとめ、発表を行いました。後半は「問い」の違いについて学び、学習内容と資質・能力をつなぐ学習活動のための「問い」について検討しました。その後、レゴブロックを使って各自が動物を組み立てながら、再現性を高める記録方法について考えることをとおして、自己評価・相互評価に関する理解を深めました。

受講者からは「講義だけでなく、体験的な内容を踏まえながら、理科教育において何が必要かを考えるととてもよい機会になりました。」「本研修がまさに今課題となっているアクティブ・ラーニングの一事例ともとれました。」「講義を聴くだけでなくグループで取り組む時間もあったので、一日という研修でしたが、充実した時間になりました。」など、満足した研修会であったとの声が多く聞かれました。

外国語活動から中学校英語への連携 理論と授業実践研修会



本研修は、小学校で行われている外国語活動への理解と、小学校と中学校が互いにどのような実践を行っているかを学びあいながら、連携を図ることを目的に実施いたしました。

研修には、文部科学省より直山木綿子教科調査官にお越しいただき、外国語教育の今後の動向について、また、外国語における小中連携の在り方について、お話をいただきました。とりわけ、教科化をむかえる小学校の英語については、今後のスケジュールや、文部科学省が作成した読み物教材について丁寧な説明がありました。現在、



「聞くこと」「話すこと」を中心に取り組んでいる外国語活動ですが、教科化となったときに新たな領域となる「書くこと」「読むこと」について、どのように捉え、取り組むべきか、学ぶことができました。直山調査官の絵本教材を用いた授業をイメージしてのお話は、大変具体的に興味深く、今後の指導の参考となるものでした。小学校での教科化に向け不安を抱えている先生方も少なくなかったようですが、「大変参考になった」「学校としても準備を進めたい」などの感想が寄せられました。

また、後半では、塩山北小学校の小宮山公仁教諭、葦崎西中学校の古屋昌信教諭が授業実践の発表を行い、校種を越えて外国語の学習について学びあいました。その上で、連携について、グループ討議を行いました。グループは、地域を考慮して設定したため、現在行っていることの成果や課題がつかみやすかったようで、熱心な話し合いが行われました。今後、小中学校間で外国語教育について話し合ったり、授業を見合ったりする機会を増やしていきたいとの声が多く聞かれました。その歩を進めるための良い機会となる研修でした。

道徳教育推進教師研修会



「道徳教育の基本的事項及び指導上の諸問題についての理解を深めるとともに、実践的指導力の向上を図り、児童生徒の心に響く道徳教育の一層の充実に資する」ことを目的に、今年度の研修会が実施されました。午前には義務教育課の田中一弘指導主事が講師となり、「『特別の教科 道徳』実施に向けて」について講義と演習が実施されました。道徳教育に関する県の施策についての説明や国の最新の動向について説明が行われました。3人のグループで道徳の授業づくりについての演習も行われました。受講者は意見を交換しながら、自分の道徳の授業に生かそうと熱心に演習に取り組んでいました。



午後は文部科学省教科調査官の赤堀博行先生による「『特別の教科 道徳』の趣旨を生かした授業づくり」について講義が行われました。山梨に関するエピソードを導入部分でしてくださり、和やかな雰囲気の中で講義が進みました。講義の中では、教科化の経緯や各学校で準備しておくことなどをお話いただきました。実際の写真や実践例をたくさん紹介していただき、今後の道徳の授業実践に向けて、とても役に立ったというアンケートが多数寄せられました。全員で参加された学校もあり、教科化に向けての授業改善について学ぶよい機会となりました。各校1名の悉皆研修ですが、希望でも受講できる研修会なので、来年度ぜひ受講ください。



アドラー心理学に基づく学級づくり研修会



新教頭研修会



初任者研修福祉とボランティア研修会



初任者研修宿泊研修会

Hello! My name is **Cynthia (Cindy) Perez** and I am the new center ALT. I am very happy and excited to be living and working in Japan! I studied child development and did undergraduate research on perceptual differences between Latino and Caucasian children in Southern California. I will be teaching at Akebono, Kaede, and Yamabiko, as well as Isawa, Nirasaki, and Tsuru cosomосу schools. I enjoy dancing, playing sports, hiking and reading. I hope to gain a good grasp of Japanese culture and language during my time in Japan. I also hope to show you many things about my Mexican-American culture and my home town of Los Angeles. Thank you everyone for welcoming me and being so kind! I look forward to exploring Yamashi and the rest of Japan!

New ALT !!

新しいALTシンディ先生です。8月より2年間の予定でセンターを拠点に県内の支援学校で英語を教えてください。どうぞよろしく お願いします。



こんにちは、私は、**シンシア (シンディ) ・ペレス** と申します。総合教育センターの新しいALTです。今、日本で暮らし、仕事をしていることに大きな喜びと興奮をおぼえています。大学では、子供の発達について学び、南カリフォルニアのラテンアメリカ人と白人の子どもたちの知覚の相違について研究をしました。あけぼの支援学校、かえで支援学校、やまびこ支援学校、そして石和、葺崎、都留のこすもす教室で教えることになっています。私の好きなことは、ダンス、スポーツをすること、ハイキングや読書です。日本にいる間に、日本の文化と日本語を理解できるようになりたいと思っています。それから、メキシコ系アメリカ人の文化や、私の故郷であるロサンゼルスについて、皆さんにいろいろなことを伝えていけたらと思います。私を歓迎していただき、親切にさせていただいてありがとうございます。これから、山梨や日本のその他の様々な地域を訪れるのを楽しみにしています。



教師として学び直す1年間

齊藤千代美（豊富小学校）

教員になって20数年が過ぎ、多くの子供たちと出会い、貴重な経験をさせていただきました。その都度自分なりに勉強はしてきましたが、日々の取り組みに追われることも多く、「もっと専門性を高め、学校現場に貢献できるようにしたい。」と考えていた時に総合教育センターの一般留学生制度を知り、初心に戻ってもう一度学び直してみようと挑戦しました。

現在「理数教育の充実に関する研究」で算数科の研究に取り組んでいます。4月当初の漠然とした研究テーマを焦点化し、理論づけ、方向性や内容を定めていくのは紆余曲折の連続でしたが、その都度、主担当の指導主事の先生、研究開発部や支援グループの指導主事の先生方、現場の研究協力員の先生方から心強いサポートを頂き、自分の中で整理し、研究を進めることができています。ゆとりのある時間の中でライブラリーにあるたくさんの教育書や教育雑誌の中から研究に関わるものを夢中で読み、新しいことや今まで形式的に行っていた指導の本当の意味を知ることがができるのはとてもうれしいことでした。また、所属校での現場研修や実践を行いながら、子供たちの実際に即した形で研究を進められることがとてもありがたいと思いました。センターでは、教育相談やICT等様々な分野の指導主事の先生による講話会、教育の不易と流行について学習を深められる教育課題研修会、夏休みの研修やコアサイエンスティーチャー養成プログラム等、様々な研修の機会が設けられ、教員としての専門性を高め、資質の向上に役立っていると感じます。

私は一般留学生になって、より広い視野でこれまでの自分の実践やこれからどのように教育実践をしていくのか改めて見つめ直す機会となっています。今後も研究・研修に努め、現場で還元できる実践力をつけていきたいと思います。



平成28年度 一般留学生の声

教師とは・・・主観から客観へ

小野優子（武川小学校）

教師は、宝物のような子ども達の成長を見守ることのできるやりがいのある仕事だと感じます。ただ、私自身経験を重ねるにつれ、個々の子どもの課題にどう対応していったらいいのか、保護者の抱える悩みや不安にどう向き合っていたらいいのか、同僚とどのように力をあわせていったらいいのか、そんなことを考え、悩むことが多くなりました。そんな時、先輩の先生から総合教育センターでの一般留学生制度を教えてくださいました。研究素人の私に不安はありましたが、この機会に！と挑戦しました。

センターでの生活は、日々の教育実践に臨む現場とはまったく違い、これまでなかなか時間のとれなかった教育理論を深め、教材開発を行い、現場での実践に結びつけることができます。ライブラリーでは豊富な資料がすぐ手に入り、またセンターにおける研修にも参加することができます。教育課題研修会においては、先輩の先生方の今日的な教育課題についての思いを聞くことができます。教師としてだけでなく、人間としての力量や感性が広がることを感じます。ただ、留学生である私の目標は、一年間で自分なりの研究を深め、実践に取り組み、成果や課題を考察し、今後の学校現場に還元したい・・・ですから、困難なことがあることも事実です。悩んで研究が進まなくなることもあります。そんなときには、主担当主事の先生をはじめ、センターで出会ったすべての先生方に力をいただきます。丁寧で適切なアドバイス、ときに励ましの言葉、ときに楽しい話・・・センターでの研究は、一人で進める孤独なものではなく、様々な分野で活躍される経験豊かな先生方と共に、「自分なりの力を高めたい！」という願いを叶えていける場所です。現場に戻ったとき、この学びが子どもや保護者や同僚に還元できたら、この一年間の成果を真に感じるのかもしれない。さらに努力していきたいと思います。

平成28年度 山梨県総合教育センター研究大会

実践交流ラウンドテーブル2017

【テーマ】～やまなし 学びの未来～

開催期日 平成29年2月23日(木) 午後開催
日程 13:00～13:20 開会式・基調提案
13:30～15:10 特別講演
講師 無藤 隆(むとう たかし)先生
15:30～16:50 ラウンドテーブル

編集発行 山梨県総合教育センター
山梨県笛吹市御坂町成田 1456
電話 055-262-5571
Fax 055-262-5572
発行責任者 所長 深澤 真悟
発行日 平成28年9月23日

